

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	測量学実習 I		
科目基礎情報								
科目番号		0020		科目区分		専門 / 必修		
授業形態		実験・実習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科		環境都市工学科		対象学年		2		
開設期		後期		週時間数		4		
教科書/教材		プリント配布, 参考書: 岡田清監修・森忠次編著 測量学【第2版】東京電機大学出版局						
担当教員		山田 宰,櫻井 祥之						
到達目標								
測量学で学習した知識を用いた実習を行い, 距離測量・水準測量・角測量・骨組測量を実施するための技術・能力を修得する。なお本講義は, 測量系コンサルタントにおける業務の遂行に関連するものである。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
各種測量器械を使用した測量の実施		測量学で学習した基礎知識について実際に距離測量・水準測量・角測量・骨組測量の実習を通じて各種測量器械を使用した測量を実施することができる。		不完全ではあるが、各種測量器械を使用した測量を実施することができる。		各種測量器械を使用した測量を実施することができない。		
測定した数値を正しく計算できる技術		測定した数値を正しく計算できる		改善点はあるものの、測定した数値を計算できる		測定した数値を正しく計算できない		
学科の到達目標項目との関係								
C-1								
教育方法等								
概要		各種測量器械を使用して, 距離測量・水準測量・角測量および骨組測量を行う。						
授業の進め方・方法		キャンパス内を利用し, 各種測量機器を用いた実習を行い, その結果得られた物を課題として提出してもらう。また, 必要に応じて講義を実施する。						
注意点		【事前学習】測量学 I およびにおいて, 実習で用いる知識を教えているため, その内容を過去のノート・資料等から復習する。【事後学習】班ごとに測量時のデータを共有し, また課題が提示された場合は完成に取り掛かる。【備考】(1)測量実習は屋外での実習であり, 天候に左右されるため, 悪天候の場合は授業内容が変更されることがある。(2)実習時の服装は実習服とし, 気温が高い時期については別途指示する。なお, 必ず靴を履き, 草履やスリッパの場合は, 実習に参加せず欠席扱いとする。						
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明。実習における安全についての注意, 基本的な距離測量 (目測, 歩測, ビニールテープ, スチールテープによる測距)		測量学実習 I における今後の授業計画を理解できる, 各種方法から距離測量ができる			
		2週	直接水準測量(1)		水準測量ができる			
		3週	直接水準測量(2)		水準測量ができる			
		4週	角測量(トランシットの据付け練習1)		トランシットの据付けができる			
		5週	角測量(トランシットの据付け練習2)		トランシットの据付けができる			
		6週	角測量(トランシットの据付け実技試験)		トランシットの据付けができる			
		7週	角測量(測角練習1)		単測法で角度を測定できる			
		8週	中間試験期間					
	4thQ	9週	角測量(測角練習2)		単測法で角度を測定できる			
		10週	角測量(測角実技試験)		単測法で角度を測定できる			
		11週	骨組測量(1)		閉合トラバースについて理解できる			
		12週	骨組測量(2)		閉合トラバースについて理解できる			
		13週	骨組測量(3)		平板測量について理解できる			
		14週	骨組測量(4)		平板測量について理解できる			
		15週	期末試験期間					
		16週	総合演習		これまでの実習内容を理解できる			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	建設系分野【実験・実習能力】	建設系【実験実習】	距離測量について理解し、器具を使って測量できる。		4	後1	
				トラバース測量について理解し、器具を使って測量できる。		4	後11,後12,後13	
				水準測量について理解し、器具を使って測量できる。		4	後2,後3	
				セオドライトによる角測量について理解し、器具を使って測量できる。		4	後4,後5,後6,後7,後9,後10	
評価割合								
		レポート課題		実技試験		実習への取り組み		合計
総合評価割合		60		30		10		100
基礎的能力		0		0		0		0

專門的能力	60	30	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0